

平成28年度 仙小教研 体育部会 第1回常任委員会資料

【第1回 研究推進部会より】

1 今年度の方向性

- ① 「3年目の継続研究」
- ② 来年度に向けて運動領域の扱いについて今年度の1年間を検討期間にする。
「地区研究の充実から仙台市全体の体育の充実へ」

2 協議

- ① 「3年目の継続研究」
 - 昨年度の研究のキーワード
【運動の特性にふれる】を大切にする。→出合い
 - 今年度の研究のキーワード
【児童の自ら学ぶ姿】を大切にする。→自立した学び

- ② 「日常の体育指導の充実」を目指して
 - 各地区の研究の成果を仙台市の体育部会以外の先生方へわかりやすく発信できるようにする。
 - ・各地区の単元計画の雛形を全地区で統一し、文字だけでなく授業実践した画像や場の設定などのイラストで編集し見やすい形式にする。
 - ・雛形については、各地区の指導案検討前には、研究推進部で検討し提示する。
 - 情報発信及び共有
 - ・学習カード、動画→ホームページで提供
 - ・わかりやすい実践記録集の作成
 - 研究推進部員の役割分担について
授業研究 (各地区研究班長)

6 連絡・その他

- ① 教育課題研究協議会について
 - ・日時：7月25日（月）
 - ・場所：仙台市教育センター
 - ・発表地区：6地区
 - ・主な役割（案）

発表者	教諭	石田	将（遠見塚）
	教諭	立山	信（南小泉）
運営責任者	教諭	青沼	佳（沖野）
司会者	教諭	赤間	浩司（七郷）
記録者	教諭	玉手	将之（東六郷）
指導助言者	教頭	菅澤	和広（連坊小路）

③ 地区体育部会の確認事項

- 会長委嘱研究推進部常任委員は、地区研究に積極的に協力する。
- 指導助言者は、当該地区の教頭先生に依頼する。（地区担当の校長先生に相談）
- 体育主任者会で授業者・会場を選考→地区担当校長に連絡・相談→地区担当校長から依頼
→了解が得られれば、研究推進班長は、研究推進副部長に報告（8月26日まで）
→研究副部長が集約して研究部長と事務局に報告→助言者の委嘱状及び派遣依頼文書を事務局から送付
- 会場使用の依頼文書は、事務局より送付する。

研究の概要

1 研究主題

「自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習を求めて」

～学習過程の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 体育科における課題

現代社会は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれている。このように新しい価値観があふれ、世界のグローバル化が加速する社会において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」が、より実効性のあるものとして発揮できるよう求められている。そのためには、児童が自らの知識・技能を生かし、新しい知識・技能を習得するとともに、他者と協働して課題を解決し、新たなものを創造し学んでいくことが重要である。近年、児童を取り巻く生活様式や環境が大きく変化し、体力の低下を招いている。また、積極的に運動する子としない子の二極化もその影響を大きく受けている。そのため、体力や運動能力の個人差の拡大が見られる。そこで、学校体育を通して児童が運動の楽しさや喜びを味わえられるようにし、一人一人の運動に対する意欲や技能、体力を高めていくことが必要である。

学習指導要領においては、体育科の目標として、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」と記されている。また、「仙台市健やかな体の育成プラン」では、3つの視点「健康に関する児童・教員・保護者等の意識の向上」「健康や体力向上に向けた効果的な取組の実践」「健康づくりを推進する体制の構築」が示されている。仙台市の現状と課題として、運動施設の制限や日常的に運動する機会の減少、体力や体育に対する意欲の低下等が懸念されている。このようなことから、児童が運動の楽しさに触れ、自らめあてを持って運動に取り組んだり、課題を解決したりして学び、運動の楽しさを十分に味わわせること、すべての運動領域において適切な運動経験を行うことが求められている。加えて、どの児童にも運動の楽しさや喜びを味わわせることができるようにするとともに、一層の体力の向上を図ることが大切である。そのためにも、指導過程や指導方法、指導体制を工夫した体育学習の実践と運動の日常化を図るための環境整備が重要であると考える。

(2) これまでの研究から

本研究会では、研究主題を「自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習を求めて」と設定し、授業実践を重ねてきた。7つの地区がそれぞれに研究主題に迫るために、これまで整理してきた児童の体育学習における「わかること・できること」を踏まえ、児童の「今持っている力」や「高まった力」でどのように運動の特性に触れさせていくのか、運動との出会いに焦点を絞り、課題解決に取り組ませる学習過程を工夫してきた。教材（運動）との出会わせ方には3つの手立てがあることが明らかになってきた。①単元導入の出会わせ方、②特性にふれさせる工夫、③新たな動きへの出会わせ方である。新たな動きに出会わせる部分については、児童が気付き発見していく部分と教師の働き掛けの部分相互に関わっていることが見えてきた。これらの出会わせ方からは、体育の授業を構成する上で、運動の特性を踏まえたできるようになるための手立てだけでなく、強い動機付けや意欲付けを行うことで児童が自ら体育を学んでいく姿を引き出せることが分かった。

・昨年度の研究で見えてきた主な課題

- 児童の学びと教師の意図的な働き掛けのバランス
(児童が工夫して運動する姿とその道筋づくり)
- 児童一人一人が自己学習できるめあて (児童が自立して学んでいくためのめあて)
- 体育学習における運動量の確保の仕方 (システマチックな授業の展開)
- 運動したくなる児童の運動環境の充実

3 研究の目標

学習指導要領の趣旨を踏まえ、学習過程の工夫を通して、自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習の在り方を探る。

4 研究主題のとらえ方

○「自ら学ぶ」姿とは（＝自立した姿）

教師の指導により、児童一人一人またはグループが自ら意志決定した「めあて」に向かって取り組んでいる姿である。そして、自主的・自発的に多様な方法で課題を解決したり、関連付けたりし、協力して運動に取り組む姿である。

○「運動の楽しさや喜び」を味わっている姿とは

運動の特性に触れ、わかったり、できたりする運動を通して、進んで何度も運動やその活動に取り組んでいる姿である。

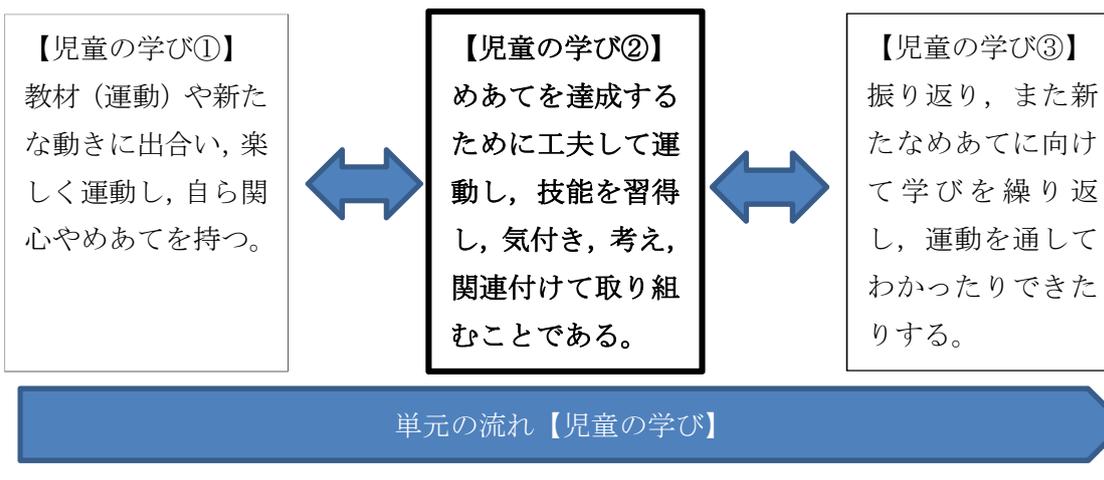
5 研究の視点

課題解決に取り組ませる中で運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫

児童の「今持っている力」や「高まった力」で運動と出合い（児童の学び①）、自ら持っためあてを達成するために、児童が自分で工夫して運動していく道筋（児童の学び②）について焦点を絞り、課題解決に取り組ませる学習過程を工夫し、検証する。また、児童の発達段階や学習内容の系統性を踏まえ、単元全体を見通した児童の学びの要素も整理する。

○課題解決に取り組ませる学習過程とは

児童の学び①～③が単元を通して発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。

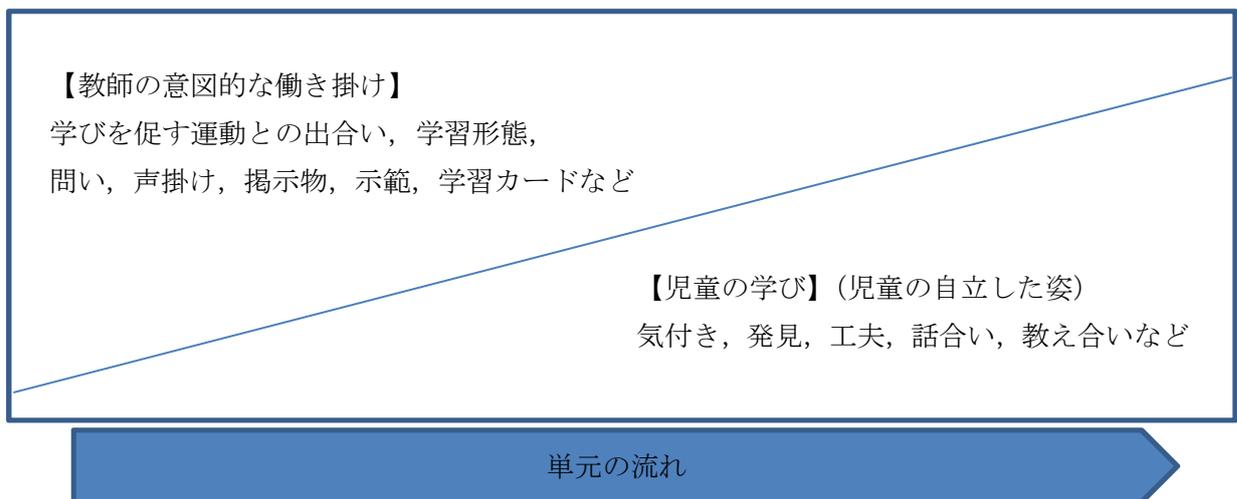


【児童の学び②】における児童が工夫して運動する道筋とは、児童が運動に出合い新たなめあてを持ち、そのめあてを達成するために運動の仕方や場などを工夫して技能を高めたり、思考を深めたりしていく過程をいう。ここでは、児童が運動のおもしろさに触れ、「もっとやってみたい」「もっとできるようになりたい」と新たなめあてを自ら持ち、自分でそのめあてに向かって工夫して取り組んでいくことで、より教材（運動）への積極性が増したり新たな動きのおもしろさに触れたり

することができるのではないかと考える。教材（運動）への自立した学びができることで教材（運動）への探求心が増し、自ら課題解決を図る達成感や楽しさへつながり、運動することの楽しさや喜びを味わえることになる。本研究では、児童がめあてを達成するために自ら工夫して運動していく姿を引き出すために、運動への出合わせ方、めあての持たせ方を追究し、教師の意図的な働き掛けと児童の学びの関係性について明らかにしたい。

課題解決を図る学習過程には、【児童の学び①②③】と【教師の意図的な働き掛け】が相互に関連している。

（単元における教師の働き掛けと児童の学びのバランス）



運動の特性や児童の実態に応じて、【教師の意図的な働き掛け】と【児童の学び】を絞り込み、「児童が何をどのように自立して学ぶか」の充実を目指し、単元の課題解決に取り組ませる学習過程を組み立てる。あわせて、運動の態度・情意面にも注目し、運動における心と体の関係性を児童に気付かせるなどして運動と保健学習との関連についても深められるようにしたい。

6 研究の方法

- ・ 地区毎の研究を主体とする。運動領域については、今後の全体の方向性に向けて他地区と関連させて選択し、研究の視点に沿って、授業実践や授業参観を通して研究を進める。
- ・ 研究の成果として、研究集録に単元計画（課題解決に取り組ませる学習過程）をまとめ、次年度につなげる。
- ・ 地区研究では、これまでの研究の成果「わかること・できること」、運動領域の系統性を明らかにし、研究主題に迫る。
- ・ 6月の教科研究会では、地区毎に昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、今年度の研究の方向性を決定する。
- ・ 7月の仙台市小学校教育課程研究協議会では、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成及び実践についての研究協議を通し、体育部員の実践的指導力の向上を図る。（今年度の発表は、6地区とする。）
- ・ 10月の教科研究会では、授業研究を行い、事後検討会を通して、各地区の研究を深める。
- ・ 2月の教科研究会では、研究集録をもとに、各地区の成果と課題について確認し、次年度の研究に生かす。（今年度発表は、7・1地区とする。）
- ・ 夏休み等を活用し、多様な研修会（実技研修、模擬授業、先輩の授業に学ぶなど）を行い、教師の指導力向上に努める。地区内での積極的な参加を呼びかけると共に、地区を越えた参加も可能になるよう、7月の研究推進部会で共有化を図る。

- ・日常の体育学習の充実を図るため、ホームページ等を積極的に活用し、研究内容についての情報の共有化を進めると共に積極的な情報発信に努める。また、これまで作成してきた研究集録・実践記録集のねらいを確認し、より分かりやすくするための工夫について検討し、内容の精選を図る。
 - ① 研究集録では、各地区に課題解決に取り組ませる学習過程のページを充実させる。
 - ② 実践記録集では、研究の視点にできるだけ沿った共通の枠組みだけでなく、個人の研究の成果も掲載できるようにする。

7 研究実践計画

期 日	研 究 内 容	会 議 名	会 場
5月16日(月)	平成28年度の研究の概要 運動領域の設定について	研究推進部会①	将監西小学校
5月26日(木)	平成27年度事業計画(研究の概要)	常任委員会①	将監西小学校
6月15日(水)	平成27年度事業計画(研究の概要) 地区研究の方向性	教科全体会①	将監西小学校
6月～10月	実態把握・教材研究・授業実践・実技 研修等	地区体育主任者会	各会場
7月21日(木)	①研究主題に迫るための各地区の手立 てについて ②教育課程研究協議会の確認 ③研究集録について ④指導案雛形について ⑤各地区の研修会について	研究推進部会② (地区長・研究副班長も参 加)	茂庭台小学校
7月25日(月)	教育課程研究協議会 ※発表地区→6地区	教育課程研究協議会	教育センター
10月5日(水)	①10月26日(水)の教科全体会の 計画確認と情報交換 ・領域、手立て、授業者、会場、日 程、指導助言者、講評など ・地区研究の状況報告、話合い ※各地区研究推進班長は、8月23 1日(水)までに研究推進副部長(齋藤先生・富沢小)へ報告 ②研究集録・実践記録集の編集方針・ 形式、ページわりなど ③情報交換	研究推進部会③	茂庭台小学校
10月25日(水)	授業研究・授業検討会等	教科全体会②	各会場
11月17日(火)	研究のまとめ方について	常任委員会②	教育センター
12月2日(金)	①2月1日(水)の教科全体会の計画 確認と情報交換 ※今年度の発表は、4、5地区 ②係分担について ③研究集録について ※研究集録原稿締切日 →12月21日(月) ④実践記録集の編集方法等の確認 ⑤情報交換	研究推進部会④	茂庭台小学校
1月12日(木)	教科研究会③(研究発表会)の確認	常任委員会③	教育センター
1月24日(火)	「実践記録集」編集	「実践記録集」編集会議	検討中
2月1日(水)	研究報告(7・1地区)	教科研究会③	教育センター